



発行日：平成 27 年 9 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 26 回海部会 WG を開催しました！

8 月 20 日（木曜日）に第 26 回海部会WGが西尾市役所にて開催されました。今回の WG では、昨年度の活動の報告と今年度の活動の進め方について、意見交換を行いました。



日時：H27 年 8 月 20 日（土） 14:00～16:00
場所：西尾市役所 会議等 2F 第 4 会議室
参加者：19 名（事務局含む）

◆主な会議内容

1：本日の話し合いで決まったこと



■山部会との合同ワーキングについて

- 9月開催予定の山部会との合同ワーキングではフィールド体験として、矢作ダムの砂を使って造成した人工干潟内で生物観察を行う。
- 会議では、漁業者の視点から見た山に求めることや、後継者問題など共通認識のある議題を中心に意見交換を行う。

■造成干潟のモニタリングについて

- 造成後の地形変遷を把握するため、竹杭等を活用した簡便的な方法で地盤高の変化を記録する。
- 市民への啓発活動、情報発信の一環として、市民でも取り組み可能な生物調査を検討する。
- 詳細レベルの生物調査は豊橋河川事務所が主体となって実施する。

■次回のWGについて

- 矢作川をきれいにする会が開催する「海の生き物」調査隊イベントに参加し、参加者や子供達との交流を進める。
- 当日は三河湾を底引き網漁船でクルージングし、海の生き物やごみを調査する予定である。

■海部会の今後の活動方針について

- 海の生物調査や体験学習など海と関連の深いイベント、講習等に海部会として積極的に参加し、参加者と交流を深めるとともに、今後の活動内容の検討に反映する。
- 山部会、川部会とも連携を図り、合同ワーキングを開催など様々な活動を通じて今後の活動方針に反映する。





●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

(1) 干潟・ヨシ原再生について

(●意見 ▶回答)

- 矢作川自然再生計画の整備目標（干潟再生 60ha、ヨシ原 3000ha）に対する現状の到達度は？（山本）
 - ▶ 干潟については現状では 500m程度の整備が完了している。ヨシ原については改めて報告する（H26 末の到達度：干潟約 10%、ヨシ原約 10%）。（大森）
- 矢作川自然再生計画に掲げている造成干潟の高さは、どの程度（地盤高）を整備の指標としているか。（和久）
 - ▶ 0.5m～1.3mである。モニタリング調査結果をみながら、施工の高さが適切なのかを検討し整備方法をかえていく方針である。ヨシについては 0.8m以上にするとヨシ以外の色々な種類の植物が生育してしまう。（大森）
- 矢作川の自然干潟は下流へ移動しており、施工干潟は安定しているとのモニタリング結果があるが、干潟のボリュームは当初よりも減っていないか。（青木）
 - ▶ 上流側に造成した土砂は下流へ流されている傾向はあるが、ボリュームはほとんど減っていない。（大森）
 - ▶ 造成した箇所は砂洲手前の深い泥の箇所であり、元々生物が生息していないような箇所である。埋めるとその付近に深いところができたりしているが、埋めたものは大きく動いていない。下流側にアサリが多い傾向である。（高橋）
- ヨシ原の再生状況についてはどうか（青木）
 - ▶ 出水により整備箇所内に土砂の堆積場所や水路ができたりして、整備した時の形が変化した。次に整備したところは少し入り組んだ環境なので、出水の影響がなく、活着している。木曽川のように出水影響を回避する水制工を整備するのがいいと思う。（高橋）
- 造成干潟の地形計測はレーザースキャナーを使うなど画期的な方法はないか。（青木）
 - ▶ 小型のレーザースキャナーをラジコンヘリコプターに搭載して、計測するという方法もはじまっているが、予算が高いのが現状である。その他レーザー距離計、ハンディ GPSなどで計測することが可能である。また、形状を記録するだけなら、インターバルカメラがある。実物を持参したので紹介する。（中田）
 - ▶ 全国漁業協同組合連合会が発行しているハンドブックに参考となる方法が記載されている。竹竿等を活用した地盤変化の観察を実施したいと考えている（大森）
 - ▶ 今、刺さっている竹竿は耐久性がないので難しい。（石川）
 - ▶ 大きな干潟ではないので、同じ場所で高低測量を行い、断面図に展開するようなレベルでもよいと思う。（塚本）
 - ▶ 地形計測は、学生をつかってやるのがよいだろう。（青木）

(2) ゴミ・流木問題

- 9月の合同ワーキングのときに「ごみ・流木調査」をやるのはどうか。（大森）
- 干潟付近にごみはほとんどない。流木があるが、大きいものが残っているので無理だろう。（石川）
- 流木は山から出るものは少なく、河川敷の高木がほとんどである。上流のスギやヒノキは少ない。（井上）
- 木は山に生えているときは生き物に必要であり、資材ともなるが、流れ出るとゴミと扱われる。このあたりの木の解釈の仕方が難しいところである。（石川）

(3) 豊かな海の生物調査

- 造成干潟での詳細な生物調査モニタリングは、事務局が冬季に実施する予定である。（大森）
- 市民が簡単にできる生物調査もやっていきたい。（青木）
- 先日、アサリの生息が確認された。それなりに生物も生息できるようになっている。（石川）
- 合同ワーキングの際に観察したい。（青木）

(4) 海と人との絆再生

- 9月 13 日矢作川をきれいにする会のイベントがある。このイベントに参加してアンケートなどを実施するのはどうか。（大森）
- 海部会ワーキングの一環としてとして活動に参加するのがよい。（青木）

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 大森、係長 桑、技官 宇野
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト (yahagigawa@ijinet.or.jp) までお送りください。